

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	情報システム Information System		単位 2
	一般・専門の別・ 学習の分野	専門 情報・制御	授業形態・学期	講義・後期
	対象学生	E C - 1	必修・選択の別	選択
	担当教員・所属	大西淳・総合理工学科情報システム系		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野	情報学／計算機システム・ネットワーク		
	専攻科学習目標との 関連	本科目は専攻科学習目標「(2)電気・電子、情報・制御に関する専門分野技術の知識を修得し、機械やシステムの設計・政策・運用に活用できる能力を身につける」に相当する科目である。		
	技術者教育 プログラムとの関連	本科目が主体とする学習・教育目標は「(C) 情報技術の修得、C - 1 : 電気・電子・情報技術者に必要な情報技術を修得し、活用できること」であるが、付随的には「A - 2」「C - 2」「F - 1」にも関与する。		
	授業の概要	情報システムはあらゆる学習の場面に関係する、多数の技術の複合体である。この複雑な情報システムを適切に構築するための技術と、活用するための基本的考え方を扱う。		
	学習目的	身近にある情報システムの仕組みを理解することで、適切で安全な利用ができるようになり、情報活用能力や情報機器利用能力の向上に資することを目的とする。		
	到達目標	◎与えられた課題を調査し、分かりやすく説明できる。 ◎他の人が説明したことを整理して適切に利用できる。 ◎自分の使っている情報システムを総合的にとらえて説明し活用できる。		
履修上の注意		本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1 単位あたり授業時間として 1 5 単位時間開講するが、これ以外に 3 0 単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。		
履修のアドバイス		調査が重要な科目であるので、授業時間外の学習で手を抜かないこと。また、「受講上のアドバイス」にある通り、授業への参加（自身の発表、他者発表の聴講）が重要な意味を持つ科目であることを自覚すること。		
基礎科目		情報リテラシー（1 年）、コンピュータ概論（情報 3）、コンピュータシステム（情報 5）		
関連科目		コンピュータシステム工学（専 1 年）		

授業にかかわる情報			
授業の方法		これまで学んできた背景の違いに配慮して、一方的な一般論の講義ではなく、自ら調査し発表するという形の講義とする。すなわち、情報システムに関して個人別の課題を設定し、各自で調査し、結果をまとめた報告書を順次作成し、この報告書の内容を受講者の前で説明するという形で授業を進めていく。これによって、内容の理解を深めるとともに、資料調査を通じた学習の進め方を体験し、他の人の調査内容を聞いて情報を共有する。 個人別に設定する具体的な課題は、受講者数などを勘案して決定するが、参考のため、課題分野の例を下記に記しておく。 課題分野の例 ・パソコンの構成要素と拡張法 ・記録用メディアの種類と用途 ・OS の構造と特徴 ・情報ネットワークの構造と規格 ・情報携帯端末の種類と特徴 ・情報の収集と発信 ・周辺装置の種類と特徴 ・Windows 系 OS の構造と特徴 ・アプリケーションプログラム ・インターネットサーバの種類と特徴 ・インターネットセキュリティ ・著作権の意味と問題例の検討	
	開講週	授業時間内の学習内容〔項目〕 (指示事項)	授業時間外の学習内容〔項目〕 (指示事項)

授 業 計 画	後 期	1 週	●ガイダンス〔教育目標や学習の進め方の説明，課題の決定〕	●調査と説明資料作成
		2 週	●調査内容の説明と質疑	●調査と説明資料作成
		3 週	●調査内容の説明と質疑	●調査と説明資料作成
		4 週	●調査内容の説明と質疑	●調査と説明資料作成
		5 週	●調査内容の説明と質疑	●調査と説明資料作成
		6 週	●調査内容の説明と質疑	●調査と説明資料作成
		7 週	●調査内容の説明と質疑	●調査と説明資料作成
		8 週	●調査内容の説明と質疑	●調査と説明資料作成
		9 週	●調査内容の説明と質疑	●調査と説明資料作成
		1 0 週	●調査内容の説明と質疑	●調査と説明資料作成
		1 1 週	●調査内容の説明と質疑	●調査と説明資料作成
		1 2 週	●調査内容の説明と質疑	●調査と説明資料作成
		1 3 週	●調査内容の説明と質疑	●調査と説明資料作成
		1 4 週	●調査内容の説明と質疑	●調査と説明資料作成
		1 5 週	●調査内容の説明と質疑	●最終報告書の作成
		教科書，教材等		教科書：なし 参考書：関連した書籍・文献等，インターネット上のオンライン資源
成績評価方法		課題の理解に自発的に取り組み発表できたか（4 0 %），他の報告を理解し適切に取り入れていたか（3 0 %），最終の報告書を適切にまとめて提出したか（3 0 %）によって評価する。		
受講上のアドバイス		他人の調査内容を聞いてそれを自身の調査に反映させることが求められるため，欠課した場合は授業時間外に他の学生と欠課した授業の内容を共有すること。欠課時数が 4 時間を越えた場合には，欠課分の情報の共有が十分行われているかを確認するため，確認試験を課す場合がある。確認試験を課した場合，その得点は成績に反映させないが，確認試験に不合格の場合は，全報告書を不受理扱い（0 点）として処理する。 授業開始直後に行う出席確認に遅れた場合は遅刻とする。遅刻 2 回で 2 時間の欠課（授業 1 回分の欠課）として扱う。 報告書の提出や確認・助言のやりとりは，すべてネットワーク経由で行うので，この方法をまず修得すること。調査方法や内容に不明な点があれば，積極的に教員に連絡をとって助言を受けること。授業を聞きながら自分の使っている情報システムとの関連を常に意識する。不明な点があれば，その場で積極的に質問するよう心がける。		

ルーブリック							
	理想的なレベルの目安（優）		標準的なレベルの目安（良）		未到達レベルの目安（不可）		
評価項目 1	与えられた課題について、誤りのない十分な調査がなされ、分かりやすく発表した。		与えられた課題について、必要最小限の調査内容が発表された。		与えられた課題についての調査がされてない、発表されていない、調査結果に誤りが多い。		
評価項目 2	他の報告を適切に参照していることが、自身の発表や報告書から伺える。		自身の発表や報告書の内容が他の報告と矛盾しない。		自身の発表や報告書の内容が、他の報告と矛盾している。		
評価項目 3	報告書の構成が適切であり、個人別に与えられた情報システムに関する課題について調査した内容が網羅的に報告されている。		断片的な所や表面的な所があったり、構成がやや不適切なところはあったりするが、個人別に与えられた情報システムに関する課題について調査した内容が必要最小限読み取れる。		報告書が提出されていない、報告書から必要最小限の調査がなされたことが読み取れない。		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	報告書	合計
総合評価割合	0	55	0	0	0	45	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	15	0	0	0	15	30
分野横断的能力	0	40	0	0	0	30	70